

3. 調査結果の概要

【全体】

- ひきこもりの該当者を抱えている世帯は 158 世帯（回答全体の 1.1%）である（問 8）。ひきこもりの該当者のうち、男性が 36.7%、女性が 62.0%となっている（問 10）。年齢別では 65 歳以上が該当者全体の 53.1%を占めており、特に 70 歳以上が 46.8%となっている（問 9）など、ひきこもりの該当者は高齢者が多かった。一方、39 歳以下は 27 世帯（同 17.0%、回答全体の 0.19%）と少なかった。
- ひきこもりの状態になってからの期間は 5 年未満が全体の 6 割程度を占め、特に 3～5 年が 22.2%となっている（問 11）。ひきこもりの該当者の年齢を区分した場合、15～64 歳は 5 年未満の割合が全体の約 6 割、3 年～5 年未満が 23.5%となっている。65 歳以上は 5 年未満が全体の約 6 割、3 年～5 年未満が 21.4%となっている。70 歳以上は、5 年未満が全体の 5 割台半ば、3 年～5 年未満が 21.6%となっている。75 歳以上は、5 年未満が全体の約 5 割、3 年～5 年未満が 18.6%となっている。
- ひきこもりの該当者のうち、6 割超の人が医療機関を受診している（問 12）。さらに受診した人のうち 6 割超が現在も通院している（問 14）。ひきこもりの該当者の年齢を区分した場合、15～64 歳は、48.5%が受診し、63.6%が現在も通院している。65 歳以上は、71.4%が受診し、61.7%が現在も通院している。70 歳以上は、71.6%が受診し、56.6%が現在も通院している。75 歳以上は、76.3%が受診し、55.6%が現在も通院している。
- ひきこもりの該当者が本人の回答は 68 人（43.0%）、ひきこもりの該当者が同居人の回答は 90 人（57.0%）である（問 16）。ひきこもりの該当者の年齢を区分した場合、15～64 歳は、ひきこもりの該当者が本人の割合は 32.4%、ひきこもりの該当者が同居人の割合は 67.6%である。65 歳以上は、ひきこもりの該当者が本人の割合は 54.8%、ひきこもりの該当者が同居人の割合は 45.2%である。70 歳以上は、ひきこもりの該当者が本人の割合は 52.7%、ひきこもりの該当者が同居人の割合は 47.3%である。75 歳以上は、ひきこもりの該当者が本人の割合は 47.5%、ひきこもりの該当者が同居人の割合は 52.5%である。

【回答者本人がひきこもりの該当者】

- ひきこもりの状態になった年齢は、65歳以上が半数以上を占め、特に75歳以上が35.3%で一番を占めている（問17）。
- ひきこもりの状態になったきっかけは、「その他」（29.4%）を除くと、退職したことが最も多く、新型コロナウイルス蔓延の影響が続いている（問18）。ひきこもりの該当者の年齢を区分した場合、15～64歳は、退職したことによる影響が最も多い。65歳以上・70歳以上・75歳以上は、いずれにおいても新型コロナウイルス蔓延の影響が最も多い。
- 現状について誰かに話や相談をした人は38.2%であり、過半数が話や相談をしていない（問19）。話や相談をした人の内、42.3%が「気持ちが楽になった」と回答している（問22）。一方、話や相談をしていない理由として、「相談する必要性を感じられなかった」と回答した割合が突出して多く（問23）、今後の相談意向についても、6割台半ばが望んでいない（問24）。ひきこもりの該当者の年齢を区分した場合、15～64歳は、54.5%が相談しておらず、「相談できる相手がいなかったため」の割合が最も多い。今後の相談意向は、6割台半ばが相談したいと考えている傾向にある。65歳以上は、63.0%が相談しておらず、「相談する必要性を感じられなかった」と回答した割合が最も多い。今後の相談意向は「全く相談しようと思わない」が60.9%となっている。70歳以上は、56.4%が相談しておらず、「相談する必要性を感じられなかった」と回答した割合が最も多い。今後の相談意向は「全く相談しようと思わない」が59.0%となっている。75歳以上は、話や相談をした人としていない人が同じ割合であった。また、話や相談をしていない理由として、「相談する必要性を感じられなかった」と回答した割合が最も多い。今後の相談意向は「全く相談しようと思わない」が60.7%となっている。
相談した結果は、回答者の年齢によらず「気持ちが楽になった」が最も多い。
- ひきこもりの該当者が本人の場合は、約4割が不安を感じたことはないと考えている。その一方、生活費等の金銭的な不安や、このままの状態が良いのかといった不安も抱えている（問32）。回答者の年齢を区分した場合、15～64歳は、「生活費等の金銭が底を尽くかもしれない不安」が最も多い。65歳以上・70歳以上・75歳以上は、いずれにおいても「不安を感じたことがない」が最も多い。

【同居人がひきこもりの該当者】

- ひきこもりの該当者が配偶者である割合は 35.6%と最も多く、配偶者・母・子で全体の約 8 割を占めている（問 38）。ひきこもりの該当者の年齢を区分した場合、15～64 歳は、配偶者(41.3%)と子(32.6%)が突出している。65 歳以上・70 歳以上・75 歳以上は、いずれにおいても母・配偶者の順が多い。
- ひきこもりの状態になった年齢は、「75 歳以上」が 24.4%と突出しているが、30 代までが 4 割台半ばを占めており、比較的若い頃からひきこもりの状態になっている人が多い（問 40）。
- ひきこもりの状態になったきっかけは、「その他」を除くと、学校や職場の人間関係がうまくいかなかったこと、不登校、学生時代のいじめなど、人間関係が契機となっている場合が比較的多い（問 41）。ひきこもりの該当者の年齢を区分した場合、15～64 歳は「学校や職場の人間関係がうまくいかなかったこと」が多い。65 歳以上・70 歳以上・75 歳以上は、いずれにおいても「新型コロナウイルスの蔓延で、外出しなくなったこと」が最も多い。
- 同居人の現状について誰かに話や相談をした人は 53.3%であり（問 42）、そのきっかけは同居人の現状や将来を案じてのことである（問 43）。相談した結果、「気持ちが楽になった」「同居人の状態を変えたい気持ちが強くなった」と、相談したことで一定の前向きな心境変化が読み取れる（問 45）。一方、相談していない理由は、「相談する必要性を感じられなかったため」、「相談して助言をもらっても、同居人が変わらないと思った」が多い（問 46）。ひきこもりの該当者の年齢を区分した場合、15～64 歳は、話や相談をした人が 47.8%であり、そのきっかけは「同居人の今の状態を変えたいと思ったため」が 86.4%、「同居人の今後の将来に不安を感じたため」72.7%と突出して多い。65 歳以上と 70 歳以上は、話や相談をした人がそれぞれ 55.3%、57.1%であり、そのきっかけは「同居人の今の状態を変えたいと思ったため」「同居人の今後の将来に不安を感じたため」が多い。
75 歳以上は、話や相談をした人が 61.3%であり、そのきっかけは「同居人の今の状態を変えたいと思ったため」が 57.9%、「同居人の今後の将来に不安を感じたため」が 42.1%と多い。
- 同居人の将来に対しては、「このままの状態が良いのかという不安」が最も多い（問 48）。そして、60.0%が同居人の状態を変えたいと思っている（問 51）。15～64 歳、65 歳以上、70 歳以上、75 歳以上の全ての年齢層で「このままの状態が良いのかという不安」が最も多く、15～64 歳の年齢層では、69.6%が「同居人の状態を変えたいと思う」と回答している。一方、65 歳以上、70 歳以上、75 歳以上ではそれぞれ 50.0%、51.4%、48.4%が「同居人の状態を変えたいとは思わない」と回答をしており、高齢者層では、ひきこもりの該当者を変えることに前向きではない傾向がある。

4. 類似設問の比較（上位4回答）

本調査では、ひきこもりの該当者が回答者本人の場合と、同居人の場合で類似した設問を設定しており、それぞれの立場による状況や心境などに関する回答結果を比較するため、「その他」「無回答」を除く上位4回答を整理した。

(1) ひきこもりの状態になった年齢、きっかけについて

設問の概要	回答者本人		同居人	
現在の就学・就労状況 本人…問6（問16で1を回答した人のみ） （回答数…68人） 同居人…問39 （回答数…90人）	1位	無職（現在学校や企業に在籍せず、アルバイトを含む就労もしていない） （回答件数：67件・98.5%）	1位	無職（現在学校や企業に在籍せず、アルバイトを含む就労もしていない） （回答件数：81件・90.0%）
	2位以下の回答なし		2位	学生（予備校生含む） （回答件数：8件・8.9%）
			3位以下の回答なし	
ひきこもりの状態になった年齢 本人…問17 （回答数…68人） 同居人…問40 （回答数…90人）	1位	75歳以上 （回答件数：24件・35.3%）	1位	75歳以上 （回答件数：22件・24.4%）
	2位	50歳～54歳 （回答件数：7件・10.3%）	2位	15歳未満 （回答件数：8件・8.9%）
		55歳～59歳 （回答件数：7件・10.3%）		20歳～24歳 （回答件数：8件・8.9%）
		65歳～69歳 （回答件数：7件・10.3%）		25歳～29歳 （回答件数：8件・8.9%）
	70歳～74歳 （回答件数：7件・10.3%）			
ひきこもりの状態になったきっかけ 本人…問18 （回答数…68人） 同居人…問41 （回答数…90人）	1位	退職したこと （回答件数：14件・20.6%）	1位	学校や職場の人間関係がうまくいかなかったこと （回答件数：14件・15.6%）
	2位	新型コロナウイルスの蔓延で、外出しなくなったこと （回答件数：12件・17.6%）	2位	新型コロナウイルスの蔓延で、外出しなくなったこと （回答件数：13件・14.4%）
	3位	病気 （回答件数：8件・11.8%）	3位	退職したこと （回答件数：12件・13.3%）
		なんとなく （回答件数：8件・11.8%）	4位	小学校時代、または中学校時代の不登校 （回答件数：10件・11.1%）

ひきこもりの該当者としては高齢者が一定数含まれており、特に回答者本人に多い。ひきこもりの該当者が同居人の場合では30歳未満が多く、年齢層の幅がある。ひきこもりの状態になったきっかけとしても、ひきこもりの該当者が回答者本人の場合は退職や病気など、加齢と関わりがあるものが挙げられている一方、ひきこもりの該当者が同居人の場合では学校や職場の人間関係・不登校やいじめが挙げられているため、教育機関や職場等、多様な主体との連携が重要であることがわかる。

(2) ひきこもりの状態に関する相談状況について

設問の概要	回答者本人		同居人	
ひきこもりの状態について、 誰かに話や相談をしたか <small>※本設問の選択肢は2つのみ</small> 本人…問 19 (回答数…68人) 同居人…問 42 (回答数…90人)	1位	話や相談をしていない (回答件数：41件・60.3%)	1位	話や相談をした (回答件数：48件・53.3%)
	2位	話や相談をした (回答件数：26件・38.2%)	2位	話や相談をしていない (回答件数：39件・43.3%)
ひきこもりの状態について、 話や相談をしたきっかけ 本人…問 20 (回答数…26人) 同居人…問 43 (回答数…48人)	1位	家族や友人等から提案や案内を受けたため (回答件数：6件・23.1%)	1位	同居人の今の状態を変えたいと思ったため (回答件数：35件・72.9%)
	2位	今の状態を変えたいと思ったため (回答件数：5件・19.2%)	2位	同居人の今後の将来に不安を感じたため (回答件数：29件・60.4%)
	3位	信頼度が高く、話や相談ができる人ができたため (回答件数：4件・15.4%)	3位	家族や友人等から提案や案内を受けたため (回答件数：4件・8.3%)
	4位	なんとなく (回答件数：2件・7.7%)	4位	同居人と同じ境遇にある人が、同居人の状態を変えた事例を目にしたため (回答件数：1件・2.1%) なんとなく (回答件数：1件・2.1%)
ひきこもりの状態について、 どこ(または誰)に話や相談をしたか 本人…問 21 (回答数…26人) 同居人…問 44 (回答数…48人)	1位	医療機関 (回答件数：11件・42.3%)	1位	家族、親族 (回答件数：28件・58.3%)
	2位	家族、親族 (回答件数：10件・38.5%)	2位	医療機関 (回答件数：23件・47.9%)
	3位	区役所 (福祉事務所、みなと保健所) (回答件数：9件・34.6%)	3位	友人・知人 (回答件数：12件・25.0%)
	4位	友人・知人 (対面で会ったことがある) (回答件数：4件・15.4%)	4位	区役所 (福祉事務所、みなと保健所) (回答件数：8件・16.7%)

ひきこもりの状態についての相談状況は、ひきこもりの該当者が回答者本人と同居人で異なっている。相談した人の動機は、回答者本人・同居人ともに今の状態を変えたいと思っている傾向にあり、双方とも現状を良しとしていない様子がうかがえる。主な相談先は医療機関や家族、親族が多く、続いて区役所や友人・知人となっている。

(3) 相談をした結果や、相談するにあたっての要望等について

設問の概要	回答者本人		同居人	
話や相談をした結果、どのような心境変化があったか 本人…問 22 (回答数…26人) 同居人…問 45 (回答数…48人)	1位	気持ちが楽になった (回答件数：11件・42.3%)	1位	あまり変化はなかった (回答件数：17件・35.4%)
	2位	全く変化はなかった (回答件数：5件・19.2%)	2位	気持ちが楽になった (回答件数：13件・27.1%)
	3位	相談しても無駄だと感じた (回答件数：4件・15.4%)	3位	同居人の状態を変えたい 気持ちが強くなった (回答件数：10件・20.8%)
	4位	あまり変化はなかった (回答件数：2件・7.7%)		相談しても無駄だと感じた (回答件数：10件・20.8%)
		他の人や相談窓口等にも相談したいと思った (回答件数：2件・7.7%)		
	不安が増した (回答件数：2件・7.7%)			
相談をしていない(またはしなかった)理由 本人…問 23 (回答数…41人) 同居人…問 46 (回答数…39人)	1位	相談する必要性を感じられなかったため (回答件数：21件・51.2%)	1位	相談する必要性を感じられなかったため (回答件数：19件・48.7%)
	2位	今の状態から変わりたくないと思ったため (回答件数：5件・12.2%)	2位	相談して助言をもらっても、同居人が変わらないと思ったため (回答件数：12件・30.8%)
		相談できる相手がいなかったため (回答件数：5件・12.2%)	3位	相談相手や相談先がわからなかったため (回答件数：8件・20.5%)
	4位	今の自分を変えられないと思うため (回答件数：4件・9.8%)	4位	相談できる相手がいなかったため (回答件数：7件・17.9%)
相談相手や相談機関への要望 本人…問 25 (回答数…18人) 同居人…問 52 (回答数…54人)	1位	無料で相談できる (回答件数：12件・66.7%)	1位	医学的な助言をくれる (回答件数：25件・46.3%)
	2位	親身に聴いてくれる (回答件数：7件・38.9%)	2位	無料で相談できる (回答件数：24件・44.4%)
	3位	医学的な助言をくれる (回答件数：6件・33.3%)	3位	親身に聴いてくれる (回答件数：19件・35.2%)
	4位	精神科医がいる (回答件数：4件・22.2%)		精神科医がいる (回答件数：19件・35.2%)
		自分の名前を知られずに相談できる (回答件数：4件・22.2%)		
		公的機関である (回答件数：4件・22.2%)		
	自宅から近い (回答件数：4件・22.2%)			
相談相手や相談機関への希望する相談方法 本人…問 26 (回答数…18人) 同居人…問 53 (回答数…54人)	1位	直接対面しての相談 (回答件数：14件・77.8%)	1位	直接対面しての相談 (回答件数：31件・57.4%)
	2位	電話での相談 (回答件数：4件・22.2%)	2位	電話での相談 (回答件数：15件・27.8%)
	3位	メールでの相談 (回答件数：3件・16.7%)	3位	メールでの相談 (回答件数：10件・18.5%)
		Microsoft TeamsやZoom等のオンラインツールを利用した相談 (回答件数：3件・16.7%)		あてはまるものはない (回答件数：10件・18.5%)

相談しない理由として、ひきこもりの該当者が回答者本人・同居人ともに「相談する必要性を感じられなかったため」が最も多い。相談先に対しては、回答者本人・同居人ともに「無料で相談できる」、「親身に聴いてくれる」、「医学的な助言をくれる」、「精神科医がいる」といった要望を持っており、相談方法は直接対面しての相談や電話での相談希望が多い。

(4) 現在の状況や将来への不安について

設問の概要	回答者本人		同居人	
本人（または同居人）の 外出頻度 本人…問 27 （回答数…68 人） 同居人…問 47 （回答数…90 人）	1 位	普段は自宅にいるが、近所のコンビニやスーパー等には出かける （回答件数：44 件・64.7%）	1 位	普段は自宅にいるが、近所のコンビニやスーパー等には出かける （回答件数：47 件・52.2%）
	2 位	自室からほとんど出ない （回答件数：10 件・14.7%）	2 位	同居人以外の方が自宅に居ても居なくても自室からは出るが、自宅からは出ない （回答件数：17 件・18.9%）
	3 位	普段は自宅にいるが、自分の趣味に関する用事の時に週1 回程度外出する （回答件数：8 件・11.8%）	3 位	自室からほとんど出ない （回答件数：12 件・13.3%）
	4 位	同居人以外の方が自宅に居ても居なくても自室からは出るが、自宅からは出ない （回答件数：5 件・7.4%）	4 位	普段は自宅にいるが、自分の趣味に関する用事の時に週1 回程度外出する （回答件数：11 件・12.2%）
不安を感じる時があるか 本人…問 32 （回答数…68 人） 同居人…問 48 （回答数…90 人）	1 位	不安を感じたことはない （回答件数：27 件・39.7%）	1 位	同居人がこのままの状態が良いのかという不安 （回答件数：48 件・53.3%）
	2 位	生活費等の金銭が底を尽くかもしれない不安 （回答件数：21 件・30.9%）	2 位	不安を感じたことはない （回答件数：25 件・27.8%）
	3 位	このままの状態が良いのかという不安 （回答件数：15 件・22.1%）	3 位	同居人の状態を変えるための支援を、同居人が受け入れないかもしれない不安 （回答件数：22 件・24.4%）
	4 位	人との付き合いがうまくいかないのではないかと不安 （回答件数：8 件・11.8%）	4 位	同居人の生活費等の金銭が底を尽くかもしれない不安 （回答件数：18 件・20.0%）

現在の状況として、ひきこもりの該当者が回答者本人・同居人ともに「普段は自宅にいるが、近所のコンビニやスーパー等には出かける」が最も多い。また、回答者本人は将来に対する不安を感じていないものの、同居人はこのままの状態が良いのかという不安を抱えているという結果から、回答者本人と同居人の中で現状に対する認識に大きな乖離があることが読み取れる。

(5) 自宅でよくしていること、交流状況について

設問の概要	回答者本人		同居人	
本人（または同居人）が自宅でよくしていること 本人…問 33 （回答数…68人） 同居人…問 49 （回答数…90人）	1位	テレビを見る （回答件数：49件・72.1%）	1位	テレビを見る （回答件数：59件・65.6%）
	2位	携帯電話・スマートフォンを使う （回答件数：30件・44.1%）	2位	携帯電話・スマートフォンを使う （回答件数：44件・48.9%）
	3位	パソコンを使う （回答件数：22件・32.4%）	3位	家事をする （回答件数：25件・27.8%）
		本を読む(雑誌や漫画を含む) （回答件数：22件・32.4%）	4位	ゲームをする （回答件数：24件・26.7%）
交流状況 本人…問 35 （回答数…68人） 同居人…問 50 （回答数…90人）	1位	近隣住民と挨拶を交わす （回答件数：23件・33.8%）	1位	家族と会話はするが、 家族以外の人と交流がない （回答件数：35件・38.9%）
		家族と会話はするが、家族以外の人と交流がない （回答件数：23件・33.8%）	2位	近隣住民と挨拶を交わす （回答件数：12件・13.3%）
		通院で医師等と会話を する （回答件数：23件・33.8%）		家族以外の人と会うことは ないが、インターネットや SNS 等を通じて人と交流し ている （回答件数：12件・13.3%）
	4位	趣味や遊びのために人と 会うことはある （回答件数：11件・16.2%）	4位	家族ともほとんど会話が ない （回答件数：8件・8.9%）
家族ともほとんど会話が ない （回答件数：11件・16.2%）				

ひきこもりの該当者が回答者本人・同居人ともに、自宅ではテレビを見たり、携帯電話・スマートフォンを使ったりしている回答が多い。他者との交流として、回答者本人は「近隣住民と挨拶を交わす」が最も多い。同居人は「家族と会話はするが家族以外の人と交流がない」に次いで「近隣住民と挨拶を交わす」が多いことから、地域との交流促進が重要といえる。